別紙：ミラクルヴォイス様ご作成資料

2023 年 11 月 24 日（金） miracleVOiCE

※本情報は 11 月 24 日(金) 13:00 解禁にてお願いいたします。※

北九州国際映画祭 KIFF2023(KIFF2023)
青山真治監督追悼特集上映

帰れ北九州へ――青山真治の魂と軌跡

SHINJI AOYAMA RETROSPECTIVE 2023

青山組ゆかりの俳優陣、映画監督、評論家など
親交のあった映画人からコメントが続々と到着！※到着順にてご紹介
特集上映スケジュール・登壇者決定！

関係各位
お世話になっております。

令和 5 年 12 月 13 日～17 日に北九州市で初となる国際映画祭「**北九州国際映画祭（KIFF2023）**」（https://kitakyushu-kiff.jp/）にて、令和 4 年 3 月に逝去された青山真治監督の追悼特集上映**「帰れ北九州へ――青山真治の魂と軌跡 SHINJI AOYAMA RETROSPECTIVE 2023」**を、青山監督の出身地である北九州市において、特別企画として実施いたします。

以下、ご案内させていただきます。
この特集上映を、ぜひご紹介、ご取材もご検討のほど、宜しくお願い致します。

青山真治監督追悼特集上映

12 月 14 日（木）～17 日（日）に実施となる青山真治監督追悼特集上映**「帰れ北九州へ――青山真治の魂と軌跡 SHINJI AOYAMA RETROSPECTIVE 2023」**。本特集上映は北九州の地で、かつて青山真治監督作品が上映され、老舗映画館小倉昭和館での“こけら落とし”として上映されます。

この度、**青山組ゆかりの俳優陣、映画監督、評論家など親交のあった映画人からコメントが続々と到着！**青山監督作品に数多く参加し、北九州出身の俳優・**光石研氏**。そして、青山作品を語るには欠かせない俳優・**浅野忠信氏**と**斉藤陽一郎氏**。映画作品他、青山監督が演出を務めた舞台にも出演した俳優・**髙橋洋氏**、生前親 交のあった映画評論家・**蓮實重彦氏**、**上野昂志氏**、映画監督・**三宅唱氏**からコメントが到着。さらに『共喰い』が転機だと語る**菅田将暉氏**。遺作となった『空に住む』からは、**多部未華子氏**、**岸井ゆきの氏**、**岩田剛典氏**。『EUREKA ユリイカ』でカンヌ国際映画祭も監督と共にした**宮﨑あおい氏**。『サッド ヴァケイション』に参加し、北九州出身の**板谷由夏氏**。さらに映画監督・**黒沢清氏**、**荒井晴彦氏**（『共喰い』脚本）、ミュージシャン・作家の**中原昌也氏**、映画ライター・編集の**月永理絵氏**。この特集上映 に、熱いコメントが寄せられました。

コメント全文は特集上映特設サイトにて掲載しています。**https://shinjiaoyamaretrospective.com/**

＜＜＜以下、コメント＞＞＞※敬称略・到着順

蓮實重彦（映画評論家）
その名前を聞くと年甲斐もなくつい涙ぐんでいまうが、いまはそんなことをいっている場合ではない。
その地で『Helpless』を撮ったことで始まった青山真治の作品群は、北九州でこそ見られねばなるまい。

上野昂志（映画評論家）
青山真治について、思い出すこと一つ。

　青山真治から、里見甫（はじめ）に興味があると聞いたのは、いつのことだったか。酒を飲みながらの話だったが、それを聞いて、青山は、アヘン王と呼ばれ、それで得た膨大な資金を関東軍に提供していた男に注目したのかと眼を見張ると同時に、１９３０年代の満州や上海で暗躍した里見を、彼が描いたら、それこそ、一大歴史活劇になっただろうと夢想した。残念ながら、それには、彼の生なる時間が追いつかなかった。むろん、映画が生まれるには、様々な条件があるから、長生きしたからとて、出来るというわけではない。せめては、彼が残した作品を見直し、その先に、彼が創り得ただろう幻の映画を想像するしかない。

光石研 (俳優)
　青山さん、そっちはどおですか？
　去年の春、松重豊さんからの突然のメールで知りました。あの時は頭が真っ白になってから、身体が動かんごとなった。

　今更ながら、御礼を言わせて頂きます。
　いやいや。いいちゃ、いいちゃやないんよ。
　いいけ聞き。
　俺は、貴方のお陰で、今俳優をやってこれとるんですよ。もちろん、お世話になった方はいっぱいおるけど、やっぱ青山さんの影響は計り知れんのよ。撮影現場での立ち振る舞いは、青山組に教わったし、スタッフとのお酒の飲み方も青山組に教わりました。難しい事は分からんけど、ちょっとだけ映画の見方も教えてもろた。今こうやって、仕事を貰えよるんも、青山さんのお陰やけ。ほんと。

　昨今、俺ら新人高齢者が、昔話や自慢話はするんは老害っち言われるらしいけど、関係無いけね。俺は現場で、若い俳優捕まえて、青山さんの話しを聞かせるけ。酒場で、若いスタッフがおったら捕らえて、青山組の話しをとうとうと聞かせてやるけ。ほで、話し疲れたらそっち行くよ。待っといちゃり。

　青山さん、本当に本当に感謝しとります。
　ありがとうございました。

浅野忠信（俳優）
青山監督とは映画を作っていたというより何か面白い事ないかと色んな場所に行って探検していた感じに近かったように思います。
みんなで適当に歩いてご飯食べてお喋りして泊まって星とか見ながら笑ってたような思い出が楽しかったです。
そうやって一緒に遊んでくれる友達がいなくなるのは本当に辛いし新しい現場でも一人ぼっちになったような気になるのが寂しいです。
また監督に会いたいです。

斉藤陽一郎　（俳優）
「小倉昭和館」が長い歴史と共に多くの方に愛されてきた劇場である事は存じ上げていましたが、今回、初めて伺う機会を頂き嬉しく思っています。それも沢山の青山監督作品と共に。『Helpless』は青山さんの劇場用映画の初監督作品であり、私が初めて出演した映画でもあります。色々と初めて尽くしの上映ですが、実は青山さん不在の中で北九州に行く事もまた、私にとっては初めてなのでした。北九州の地を踏む時は映画を作る時、そしてそこには必ず青山さんの姿がありました。気配を感じない日は無く、未だにその不在をどこか受け入れられずにいますが、「帰れ北九州へ」と呼ばれていますから、きっとどこかにいる筈です。寧ろそこら中にいると言ってもいいかも知れません。この街に色濃く残るその影をみなさんと共に追いかけるのを楽しみにしています。

髙橋洋 （俳優）
「帰れ北九州へ―青山真治の魂と軌跡」というタイトルに、そうか青山さんの魂はそこへ還っていくのだなとジンときます。『Helpless』で初めて青山作品に触れた時から、まだ俳優志望の身でありながら勝手に将来の夢を決めつけ『東京公園』で現実となるまでの間、特に北九州サーガ三部作を数え切れないほど見返した僕にとって、その地で撮られた映画は特別です。初めてご一緒した後に、何気ない会話のなかでつい口を滑らせ「青山さんは北九州で撮ったあの映画みたいなのはもう撮らないんですか？」と聞いた僕に「みたいなのって何だよ？」とニヤリ笑った青山さんが妙に恐ろしかった。青山組とそこにいる人々が自分には一番の憧れでした。おかえりなさい、ですね。

三宅唱（映画監督）
今夏台湾で「かつて青山監督が台北にきた際、食事後には一人で長時間散歩に出掛けていました」という話を聞きました。「フランスでもめちゃ歩いてた」というのは以前にも聞いたことがあります。どこにいて、何をどう感じ、何を試し、どこに行こうとしていたのでしょうか？ 単に「風景」なんてものを探していたのではない、とはわかっているつもりです。ともかく、スクリーンに映る土地と人間たちをみたあとには、劇場を出てそのまま北九州のまちを歩いてみたいと思います。

菅田将暉（俳優）
正直まだうまく飲み込めずにいます。
明日にでも連絡が来て、また現場で会えることを楽しみにしている自分がいます。
19 歳の夏、映画『共喰い』に出会い、青山真治監督と出会い、僕は人生が変わりました。
人の生活と映画のこと、俳優部と映画のこと、音楽と映画のこと、撮影の前日に何度も観ている映画のこと、
時々酔っ払ってはミックジャガーを踊り、色んな話をしてくださいました。
その全てが無知な自分に突き刺さり、今の自分が形成されています。
撮影現場で褒められた事は二つだけで、皿洗いが下手な事とステーキを右から切った事でした。
試写会で自分の不甲斐なさに落ち込んでる時に「遠馬、あと５本やろう」と言ってくれた言葉が頭から離れません。
どんな現場にいても、どんだけしんどくても、観られているかもしれない、と思うと不思議な力が湧いてきます。
29 歳になり、そろそろ青山監督に怒られないとな、と思っていた矢先、でした。
なので、まだまだ会いたいです。また一緒にロカルノに行きたかったです。
あのロックスターみたいな佇まいや酔って真っ赤になって寝ている姿を見たかったです。今なら一緒に真っ赤になれると思います。

いつまでもそんなことを夢見ているとは思いますが、これからもきっと観てくれていると信じ、現場に生きます。そして映画を観て、会いに行きます。

出会えたことが僕の誇りです。
青山真治監督、ありがとうございました。

黒沢清（映画監督）
青山は太い映画というハイウェイを、横に文学と音楽をたずさえて、いったいどこを目指して疾走していたのだろうか。私は東京にいる彼しか知らなかったが、その目はいつも北九州の方角を見ていたように思う。出生地であり終着点でもあるその場所が彼にとって何であったか、映画や文学や音楽にとってそれは何を意味するのか、それがこれから、ゆっくりと時間を掛けて明らかになっていくだろう。

多部未華子（俳優）
青山監督は、私と会うたび、20 代のときに出演したドラマのことを好きだ好きだと仰ってくれました。「奥さんと多部さんを娘にしたいくらいだよねって話してるんだよ」と。
初めてお会いしたときからこんな調子でしたので、青山監督はとても優しく、いつもニコニコしている、それが私が思う監督の印象です。
そんな初対面からスタートした映画の撮影はそれはそれは穏やかに和やかで、静かな雰囲気のまま終わりました。それは私にとって、とてもとても心地の良い現場でした。

青山監督へ
なかなか初対面の方と和気藹々とお話しするのが苦手な私ですが、あんな風に優しく声を掛けてくださり、ありがとうございました。
監督の周りの方が口を揃えて、お酒をすごく飲む人だと言っていたので、くれぐれも、天国で酔い潰れてませんように！

岸井ゆきの（俳優）
『空に住む』のクランクアップのとき、「また一緒に映画をつくろうね」と言って握手をしてくださいました。私にとってはこのひと言がこの上なく嬉しくて、事務所で「青山さんがそう言ってくれたんだ！」と自慢げに話したりなんかして、だからこの言葉は私がこれからどんな俳優になろうと、叶わない夢として、輝きを増して続けていく糧になります。
本当はもっと聞きたいことがあったのですがまたいつかがあると思って、言いたいことだけ伝えてしまいました。
でもきっと答えは青山さんの映画の中にあって、今も映画を通して応答してくれる。
思えばそうやって今までも映画を観てきたし、たとえば私は大好きな映画のその作者に、ほとんど会ったことがないけれど、同じように映画を通して大切な何かを受け取ってきました。
だから、青山作品の一員として想いを伝えられる距離にいたこと、その瞬間のすべてがこれからもずっと残ることがわたしの誇りであり自信です。
青山さん、ありがとうございました。

岩田剛典（EXILE / 三代目 J SOUL BROTHERS・俳優）
『空に住む』という作品に参加させて頂き、青山監督の現場での演出が、自身が台本を読んでイメージしてきた選択肢には無いものの時があって、遊び心が溢れた演出にワクワクさせられる現場でした。
スタッフさんからは監督だいぶ丸くなったんだよ〜みたいな話をされましたが、自分にとってのイメージは寡黙かつチャーミングな監督でした！

宮﨑あおい（俳優）
青山さんがお空に帰ったと聞いた日
私は北九州にいました。
しかも、ちょっと大きな車に乗って旅している途中。
ユリイカみたいに。
きっと、青山さんに導かれて北九州にいたんだと思います。
私の人生の大切な瞬間にはいつも青山さんがいます。
青山さんと出会って
映画が好きになって
目指すべき大人たちに出会って
今もみんなの背中を追っかけて
仕事を続けています。
私の幸せを心から喜び、
青山さんの笑顔と涙が溢れ続けていたあの日の景色は
私を支え強くしてくれています。
日々大好きな気持ちが増していますが、青山組の一員としてまっすぐ進んでいきます。
これからも、監督の作品が愛され続けることを願っています。

板谷由夏（俳優）
板谷、なんもすんな。
青山監督から
『サッド ヴァケイション』の現場で
最初にかけていただいた言葉です。
演じる、ということに向かう時
いつも心にある言葉。
なんもすんな。
私のお守りです。

荒井晴彦（脚本家・映画監督）
『共喰い』の口ケハンで小倉へ行った。青山は小倉昭和館、旦過市場を案内してくれ、俺は合馬たけのこを買った。そのあと２階に上がる階段に『サッド ヴァケイション』のポスターが貼ってある飲み屋で飲んだ。
できあがった『共喰い』のラストには、なぜか「帰れソレントへ」が流れた。山田勲生と青山のギターだった。青山は「帰れキタキュウへ」と歌っていたのかもしれない。青山が帰っているなら、行こう、北九州へ。

中原昌也（ミュージシャン・作家）
上映に皆さんが集まれば、死者蘇生も夢じゃない！

月永理絵（ライター、編集者）
映画とは自分の想像よりずっと大きく、ときに人生よりも巨大だ。だからその大きさに徹底的に打たれるしかない。青山真治という人は、そう私に教えてくれた。そして彼の遺した映画もまた、つねに途方もなく大きな何かに挑んでいたのだと、いま改めて思う。
まずは青山真治の映画を見に行こう。呆然と立ち尽くし、怯みながら、その大きさを語る言葉を見つけるために。

特集上映期間中、光石研氏、斉藤陽一郎氏、髙橋洋氏、板谷由夏氏、とよた真帆氏、プロデューサー・甲斐真樹氏、仙頭武則氏、佐藤公美氏、映画監督・三宅唱氏による登壇が決定。**14 日(木)は、『共喰い』（小倉昭和館のこけら落とし）には、俳優の光石研氏が登壇します。**
上映スケジュール、登壇スケジュールは以下となります。**詳細は北九州国際映画祭（KIFF2023）公式サイトにて掲載となります。（https://kitakyushu-kiff.jp/）**

【「帰れ北九州へ――青山真治の魂と軌跡」上映・登壇スケジュール】

12 月 14 日(木)　会場：小倉昭和館
10:00～12:15『共喰い』／光石研氏
12:45～15:15『空に住む』／髙橋洋氏、斉藤陽一郎氏
15:45～18:30『サッド ヴァケイション』／とよた真帆氏、板谷由夏氏、斉藤陽一郎氏、甲斐真樹氏（**本上映のみ、Ｊ:ＣＯＭ北九州芸術劇場 中劇場にて実施**）

12 月 15 日(金) 小倉昭和館
10:00～14:15『ユリイカ』
15:00～16:45『Helpless』／斉藤陽一郎氏、佐藤公美氏

12 月 16 日(土) 小倉昭和館
10:00～12:30『サッド ヴァケイション』
13:00～15:00『共喰い』
15:30～18:00『東京公園』／三宅唱氏、斉藤陽一郎氏、佐藤公美氏
18:30～20:15『Helpless』／斉藤陽一郎氏、仙頭武則氏、佐藤公美氏

12 月 17 日(日) 小倉昭和館
10:00～12:15『空に住む』
13:00～17:15『ユリイカ』／斉藤陽一郎氏、仙頭武則氏、佐藤公美氏
18:00～20:15『東京公園』

※『Helpless』、14 日(木)『サッド ヴァケイション』以外は全て英語字幕にて上映

北九州国際映画祭（KIFF2023）　青山真治監督追悼特集上映　概要

帰れ北九州へ――青山真治の魂と軌跡
SHINJI AOYAMA RETROSPECTIVE 2023

会期：令和 5 年 12 月 14 日（木）～17 日（日）
会場：小倉昭和館、Ｊ:ＣＯＭ北九州芸術劇場 中劇場
上映作品・ゲスト：北九州国際映画祭（KIFF2023）公式サイトにて掲載
『Helpless』(1996)、『EUREKA ユリイカ』(2000)、『サッド ヴァケイション』(2007)、『東京公園』(2011)、『共喰い』(2013)、『空に住む』(2020)を予定。『Helpless』以外は英語字幕にて上映。
企画：ミラクルヴォイス
主催：北九州国際映画祭実行委員会、北九州市
協力：WOWOW、スタイルジャム、ショウゲート、ビターズ・エンド、アスミック・エース、カズモ、ブランディッシュ、LDH JAPAN
特設サイト：shinjiaoyamaretrospective.com

北九州国際映画祭（KIFF2023）　概要
会期：令和 5 年 12 月 13 日(水)~17 日(日)
会場：Ｊ:ＣＯＭ北九州芸術劇場 中劇場及び市内映画館
主催：北九州国際映画祭実行委員会、北九州市
アンバサダー：リリー・フランキー氏
上映作品：国内未発表の国内外の作品等を予定。及び、特別企画作品等。
公式 HP：https://kitakyushu-kiff.jp/

【同時期開催 関連イベント】
青山真治クロニクルズ展
◇会 期：2023 年 12 月 2 日(土)～12 月 17 日(日) 16 日間
◇会 場：北九州市立美術館分館 リバーウォーク北九州 5 階
主催：青山真治監督の企画展を北九州で開催する会
https://kitaqcinema.com/

第 6 回 北九州市民映画祭 青山真治監督特集
◇会 期:2023 年 12 月 8 日(金)～10 日(日) 計 3 日間
◇会 場:北九州市立美術館分館
リバーウォーク北九州 4 階
主催:北九州しねま研究会(北九州市民映画祭)
https://kitaqcinema.com/

★画像素材はこちらから

https://www.dropbox.com/scl/fo/1fz2uff8kjr05lnh4pjdn/h?rlkey=ppob1tqcrkxkb160a1iwvlqa6&dl=0

＜素材内容＞
・特集上映メインビジュアル
・上映作品場面写真
・青山真治監督宣材写真